

問1 1860年代のアメリカで、リンカーン大統領が「人民の、人民による、人民のための政治」という演説を行った当時の、世界の歴史的な状況についての説明として正しいものはどれですか。 (2017年 和歌山公立入試 類似)

1. アメリカ国内で、工業化を進める北部と奴隷制を維持する南部の対立から南北戦争が続いていた。
2. フランスで市民が絶対王政を打倒し、人権宣言を採択したフランス革命が最高潮に達していた。
3. 清において孫文らが中心となり、皇帝政治を倒してアジア初の共和制を目指す辛亥革命が起きていた。
4. コロンブスがスペイン女王の支援を受けて大西洋を横断し、カリブ海の島々に到達していた。

問2 1860年代の横浜港における貿易品目の特徴と、当時の貿易収支の状況について説明した文として、正しいものはどれですか。なお、当時の横浜港では、ある品目が輸出の65.1%を占め、別の品目が輸入の52.8%を占めていました。 (2017年 香川公立入試 類似)

1. 輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。
2. 輸出品は綿織物、輸入品は生糸が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。
3. 輸出品は茶、輸入品は武器が中心であり、輸入額が輸出額を上回る輸入超過の状態であった。
4. 輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸入額が輸出額を上回る輸入超過の状態であった。

問3 1840年に勃発したアヘン戦争において、勝利したイギリスが清との間で結んだ講和条約の名前と、その条約でイギリスが領有することになった地域の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)

1. 南京条約 — 香港
2. 南京条約 — 台湾
3. 下関条約 — 香港
4. 下関条約 — 遼東半島

問4 日米修好通商条約に代表される不平等条約の内容について、領事裁判権を認めたことで日本が被った実質的な不利益として最も適切な説明はどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)

1. 日本国内で事件を起こした外国人に対し、日本の警察や裁判所が日本の法律を適用して処罰できなかった。
2. 外国から輸入される商品に対して日本側が自由に税率を決めることができず、安い外国製品が流入した。
3. 特定の国に与えた最も有利な条件を、他の締約国に対しても自動的に適用しなければならなくなった。
4. 外国人が指定された居留地を越えて、日本国内のどこでも自由に旅行したり商売したりすることを認めざるを得なかった。

問5 幕末の政治的推移において、1850年代の開港から1860年代の倒幕運動へとつながる因果関係について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 佐賀公立入試 類似)

1. 幕府が朝廷の許可なく開港や条約調印を進めたことに反対派が反発し、それに対する安政の大獄での弾圧が、有力藩による薩長同盟などの倒幕運動を加速させた。
2. 薩摩藩と長州藩が同盟を結んだことで幕府が外交権を失い、その結果として日米和親条約が締結され、混乱を鎮めるために安政の大獄が行われた。
3. 安政の大獄によって幕府の権威が回復したため、諸外国との開港が円滑に進み、最終的には薩摩藩と長州藩が幕府を支えるために薩長同盟を結成した。
4. 開港による経済の混乱を防ぐために薩摩藩と長州藩が幕府に安政の大獄を提案し、その後両藩が主導権を握るために薩長同盟を解消させた。

問6 1865年の横浜港における貿易統計では、輸出額の約88%を生糸が占める一方、輸入額の約4割を綿織物が占めていました。このような貿易の構造が、当時の日本国内の産業に与えた影響として、最も適切な説明はどれか。 (2023年 茨城県公立入試 類似)

1. 海外から安価な綿織物が大量に流入したことで、国内の綿織物生産が大きな打撃を受けた。
2. 生糸が大量に輸出されたことで国内供給が不足し、国内の着物産業が急速に近代化された。
3. 輸入された毛織物を加工して再輸出する加工貿易が盛んになり、各地に官営工場が建設された。
4. 貿易の利益が農村へ還元されたため、江戸時代の封建的な社会構造が維持される要因となった。

問7 19世紀半ばの清において、イギリスが軍事攻撃を仕掛ける背景となった「三角貿易」の仕組みを正しく説明したものはどれか。 (2021年 岡山公立入試 類似)

1. イギリスから清へ綿織物を送り、清からインドへ銀を送り、インドからイギリスへ茶を送る仕組み。
2. イギリスからインドへ綿製品を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を売った代金の銀が流れる仕組み。
3. 清からイギリスへ生糸を送り、イギリスからインドへ武器を送り、インドから清へ香辛料を送る仕組み。
4. インドからイギリスへ小麦を送り、イギリスから清へ工業製品を送り、清からインドへ労働力を送る仕組み。

問8 産業革命が起こった18世紀から19世紀にかけて、生産力の飛躍的な増大を支えた最も重要な技術的背景として正しいものはどれですか。 (2020年 沖縄公立入試 類似)

1. 蒸気機関を動力源として利用し、工場での大量生産を可能にした。
2. 電気モーターを動力源として普及させ、情報通信技術を確立した。
3. 牛や馬などの家畜を動力源として、農作業の効率を最大化させた。
4. 原子力エネルギーを動力源として、巨大なプラントを建設した。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
アメリカ国内で、工業化を進める北部と奴隷制を維持する南部の対立から南北戦争が続いていた。
- リンカーンの演説は、1861年から1865年にかけて行われたアメリカ南北戦争の途上で行われました。フランス革命は18世紀末（1789年～）、コロンブスの航海は15世紀末（1492年）、辛亥革命は20世紀初頭（1911年）の出来事であり、これらは時代や場所が異なります。リンカーンの演説が行われた背景には、バラバラになりかけた合衆国を民主主義の精神によって再び一つにまとめようとする強い意図がありました。
- 問2** **答え 1**
輸出品は生糸、輸入品は綿織物が中心であり、輸出額が輸入額を上回る輸出超過の状態であった。
- 幕末の貿易において、日本の最大の輸出品は生糸であり、次いで茶などが挙げられます。一方で輸入品は綿織物や毛織物といった衣類原料が中心でした。1860年から1867年にかけての輸出入額の推移を見ると、一貫して日本の輸出額が輸入額を上回っており、この状態を輸出超過と呼びます。この貿易構造は、国内の物資不足や物価高騰を招く一因ともなりました。
- 問3** **答え 1**
南京条約 — 香港
- イギリスはアヘンの没収をきっかけに清へ軍事侵攻を行い、アヘン戦争を引き起こしました。1842年に締結された南京条約では、香港の領有のほか、上海などの5港の開港や多額の賠償金の支払いが定められ、清にとって極めて不利な内容となりました。下関条約は日清戦争の講和条約であり、混同しないよう注意が必要です。
- 問4** **答え 1**
日本国内で事件を起こした外国人に対し、日本の警察や裁判所が日本の法律を適用して処罰できなかった。
- 領事裁判権が認められたことにより、外国人が日本人に対して暴行などの罪を犯しても、その国の領事によって裁判が行われ、軽い刑罰で済まされるといった不公平な事例が多発しました。このように自国の司法権が及ばないことは、主権国家として対等ではない不平等な状態を意味します。なお、輸入関税を決められない不利益は「関税自主権の欠如」にあたります。
- 問5** **答え 1**
幕府が朝廷の許可なく開港や条約調印を進めたことに反対派が反発し、それに対する安政の大獄での弾圧が、有力藩による薩長同盟などの倒幕運動を加速させた。
- ペリー来航後の開港は、国内の「攘夷（外国を追い払う）」思想と結びつき、幕府の外交姿勢を批判する勢力を生みました。大老の井伊直弼が安政の大獄でこれらを押しさえつけようとしたことは、かえって反幕府の機運を強める結果を招きました。その後、軍事力を持つ薩摩藩と長州藩が、土佐藩の坂本龍馬らの仲介で薩長同盟を結んだことで、幕府を倒す具体的な準備が整うことになりました。
- 問6** **答え 1**
海外から安価な綿織物が大量に流入したことで、国内の綿織物生産が大きな打撃を受けた。
- 開国後の貿易において、日本は生糸を筆頭に茶などを輸出しましたが、同時に産業革命を経たイギリスなどから安価な綿製品や毛織物が大量に輸入されました。これにより、それまで日本の農村で盛んだった家内工業としての綿織物生産は、価格競争に勝てず衰退するなど大きな影響を受けることとなりました。一方で、生糸の需要急増は物価の上昇を招き、社会不安の一因ともなりました。
- 問7** **答え 2**
イギリスからインドへ綿製品を送り、インドから清へアヘンを送り、清からイギリスへ茶を売った代金の銀が流れる仕組み。
- イギリスは自国の貿易赤字を解消するため、植民地であるインドを利用しました。イギリス製の綿製品をインドへ、インド産のアヘンを清へ、そして清の茶をイギリスへ運ぶという構造を構築することで、最終的に清からイギリスへ銀が還流する仕組みを作り上げました。このアヘン貿易の強制が戦争の直接的な背景となりました。
- 問8** **答え 1**
蒸気機関を動力源として利用し、工場での大量生産を可能にした。
- ワットによる蒸気機関の改良は、それまでの水力や畜力に頼っていた生産体制を一変させました。石炭を燃料とする蒸気機関が工場の機械や鉄道、蒸気船に活用されたことで、安定した大量生産と迅速な輸送が実現し、工業中心の社会へと移行しました。